

講義要綱

【授業科目名】	生物学	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	本科	【講師名】	竹村朝子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
【単位数】	2						
【一般目標:GIO】 鍼灸・按摩・マッサージ師の資格を習得する上で必要な専門科目を履修するために、その基礎となる科学的、生物学的知識を習得する。その他、一般生活における科学的教養を高めることを二儀の目標とする。							
【行動目標・到達目標:SBO】 生物の仕組みを理解し、疾病に関わる専門科目の理解を深めることが出来る。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 科学基礎 2: 生物学基礎 3: イントロダクション「生物学とは」 4: 「生命を支える分子」 5: 「細胞」「単細胞生物と多細胞生物」「組織と器官」 6: 「細胞のはたらきについて」 7: 「エネルギーと代謝」 8: 「細胞の一生」「細胞の種類」「細胞分裂」 9: 「配偶子形成」「生殖の種類」 10: 「受精」「カエルの発生」 11: 「ヒトの初期発生」 12: 「古典的遺伝学」 13: 「分子遺伝学」 14: 「遺伝学の応用」 15: 試験問題の解説および総復習							
【テキスト】 改訂版「視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録」 監修 鈴木孝仁 数研出版							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし。							

講義要綱

【授業科目名】	組織学	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	後期
【学科】	本科	【講師名】	竹村朝子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
				【単位数】	2		
【一般目標:GIO】 鍼灸・按摩・マッサージ師の資格を習得する上で必要な組織学の基礎的知識を習得し、さらに、専門科目を履修するための発展的学習を行う。							
【行動目標・到達目標:SBO】 組織の仕組みを理解し、疾病に関わる専門科目の理解を深めることができる。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
				1: 「組織学基礎」 2: 「細胞と細胞小器官」 3: 「血球」 4: 「結合組織1」 5: 「結合組織2」 6: 「上皮1」 7: 「上皮2」 8: 「筋」 9: 「神経組織1」 10: 「神経組織2」 11: 「神経系1」 12: 「神経系2」 13: 「骨組織」「軟骨組織」 14: 「各器官系の特徴について」 15: 「試験問題の解説および総復習」			
【テキスト】 改訂版「視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録」 監修 鈴木孝仁 数研出版							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし。							

講義要綱

【授業科目名】	医療コミュニケーション	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	本科	【講師名】	松野俊夫	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
【単位数】	2						
【一般目標:GIO】 臨床活動に必要とされる患者理解のための心理学及びコミュニケーションスキルについて学習する。患者になることによる心理的变化の理解、患者との信頼関係の形成、傾聴の態度などについて理解し説明できることを目標とする。							
【行動目標・到達目標:SBO】 ①人間関係の中のやり取りについて説明出来る。②ラポールについて説明出来る。③傾聴について説明出来る。④受容と共感について説明出来る。⑤医療面接について説明出来る。⑥病者とのコミュニケーションについて説明出来る。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 人間関係の基礎(人間の認知特性) コミュニケーションの基礎 2: 人間関係の分析①(交流分析法:ストローク欲求と行動) コミュニケーションの基礎 3: 人間関係の分析②(交流分析法:自我の構造とやり取り) 人間関係とコミュニケーション 4: (単方向のコミュニケーションと両方向のコミュニケーション) 5: 医療面接の技法①医療面接の実際 6: 医療面接の技法②様々な質問法 7: 医療面接の技法③治療者の態度 8: 医療におけるコミュニケーション①患者を取り巻く環境 9: 医療におけるコミュニケーション②信頼関係の構築(1) 10: 医療におけるコミュニケーション③信頼関係の構築(2) 11: 医療におけるコミュニケーション④ラポールの構築(1) 12: 医療におけるコミュニケーション⑤ラポールの構築(2) 13: 医療におけるコミュニケーション ⑥指示的なコミュニケーション 14: 医療におけるコミュニケーション ⑦受容的なコミュニケーション 15: 試験の解説と総復習							
【テキスト】 プリント配布							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たしたものに対し、学期末の筆記試験において評価する。							
【授業実施上の留意点】 座学だけでなく実習なども取り入れ「体験して考える」講義とする。							

講義要綱

【授業科目名】	栄養学	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	後期
【学科】	本科	【講師名】	鈴木ルミ子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
				【単位数】	2		
【一般目標:GIO】 治療効果を高め、また患者の生活指導に役立つ栄養学について学ぶ。							
【行動目標・到達目標:SBO】 栄養学の知識を持ち患者の生活指導に役立てるようになる。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
				1: 栄養学基礎 2: 五大栄養学と各食品の特徴① 3: 五大栄養学と各食品の特徴② 4: 五大栄養学と各食品の特徴③ 5: 五大栄養学と各食品の特徴④ 6: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 7: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 8: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 9: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 10: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 11: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 12: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 13: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 14: 栄養学まとめ 15: 試験問題解説			
【テキスト】 教科書:改訂新版「いちばん詳しく、わかりやすい!栄養の教科書」新星出版社 中嶋洋子著 参考書:東洋療法学校協会編「衛生学・公衆衛生学」「生理学」「臨床医学各論」							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし							

講義要綱

【授業科目名】	英語	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	本科	【講師名】	山川より子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
				【単位数】	2		
<p>グローバルな時代を迎え、医療の現場でも外国人の方々と接する機会が増えてきている。また、最新の医学論文は英文で記されていることが多い。コミュニケーションの手段と医学知識の吸収のためにも、医療の現場で用いられる、英語の専門用語や表現を十分に理解し修得する。</p>							
<p>【行動目標・到達目標:SBO】 医療現場の英語に習熟し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。</p>							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
<p>1: 講義概要の説明／自己紹介(speaking & writing)/ ①Parts of the Body(1)</p> <p>2: ①Parts of the Body(2)/ ①の補足(人体各部の形容詞形・連結形)</p> <p>3: ②Basic English Conversation in the <i>Shinkyuin</i>, <i>Sekkotsuin</i>, Clinic etc. 1.Making an appointment 2.At the entrance</p> <p>4: ②3.At the reception desk</p> <p>5: ②4.Preliminary examination(1)</p> <p>6: ②4.Preliminary examination(2) ②5.In the consultation room(1)</p> <p>7: ②5.In the consultation room(2)</p> <p>8: ②6.At the cashier/ ③Useful Expressions 1.Pain:Ache;Sore</p> <p>9: ③2.Instructions</p> <p>10: ③3.Diagnosis/③4.The cause of the ache or pain/ ③5.Symptoms</p> <p>11: ③6.Checks & treatment/ ③7.After checks & treatment</p> <p>12: ④⑤Useful Expressions for Acupuncturists</p> <p>13: ⑦Case Studies 1.A conversation between an acupuncturist and a patient(1)</p> <p>14: ⑦ 1.A conversation between an acupuncturist and a patient(2)</p> <p>15: 試験解説/ English Conversation Useful at a Stadium for Acupuncturists - Basic English Conversation with Athletes</p>							
<p>【テキスト】 『Basic English Conversation for Acupuncturists, Judo-Therapists and their Receptionists 鍼灸師、柔道整復師、受付係のための英会話入門 第2版』 山川より子 (技秀堂)</p>							
<p>【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。</p>							
<p>【授業実施上の留意点】 特になし</p>							

講義要綱

【授業科目名】社会福祉概論	【分野】基礎	【学年】1	【学期】後期
【学科】本科	【講師名】楠 秀樹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 社会福祉・社会保障制度に関する基礎知識を、社会的動向との関連において、理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 社会保障制度について、わかりやすく説明することができる。 社会福祉の各領域について、あはき師の活動と関連させて、表現することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >	< 後 期 >		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援という考え方ー社会福祉の理論と歴史 2. 生活を支える支援システムー社会福祉のしくみ 3. 貧困を考える1ー生活保護と就労支援 4. 貧困を考える2ー生活保護と就労支援 5. 子供の育ちを考えるー子どもと社会福祉 6. 家族の今・むかしー家族と社会福祉 7. ジェンダーから見た社会福祉 8. 自立を支えるー障害者と障害者自立支援法 9. 高齢化社会を考えるー 少子化と介護保障システム 10. 支え合う・助け合うー地域コミュニティと社会福祉 11. ホスピスケアとはー看護と社会福祉 12. 子どもの学習と発達を支えるー 教育現場での社会福祉の役割 13. こころを支えるー心理臨床と社会福祉 14. ともに暮らせる社会ー多文化共生と社会福祉 15. 試験解説・まとめ 		
【テキスト】 岡田忠克編『よくわかる 社会福祉』ミネルヴァ書房 参考書は、講義時間内に、適宜紹介する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 社会福祉の考え方を学ぶほか、社会統計の読みとり、文章表現、そうしたことに力を入れて、講義を行いたいと考えています。			

講義要綱

【授業科目名】	人体の構造と機能Ⅰ(解剖学Ⅰ)	【分野】	専門基礎	【学年】	1年	【学期】	前・後期		
【学科】	本科	【講師名】	前期:佐藤 巖、後期:上田容子	【授業コマ数】	30	【授業時間数】	60	【単位数】	2
【一般目標:GIO】									
はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師に必要な解剖学的指標を明確にし、人体を構成する各器官系のうち、運動器系(骨・筋)の構造と機能についての基礎的事項を理解するとともに、細胞学、組織学、体表解剖学についての関連性を把握し、人体の構造についての解剖学的重要事項を整理し、国家試験に対応した知識を修得する。									
【行動目標・到達目標:SBOs】									
<骨格系>骨の構造と働き、区分について知識を修得する。頭蓋の骨(脳頭蓋・顔面頭蓋)、頭蓋骨、胸郭の骨、上肢の骨、下肢の骨、骨盤の連結と構造についての知識を修得する。 <筋学系>筋の種類、神経、起始停止、働きについて知識を修得する。顔面の筋、頸部の筋、胸部の筋、腹部の筋、背部の筋、上肢の筋、下肢の筋、体表解剖と筋について形態と付着、機能についての知識を修得する。									
【 授 業 計 画 】									
《前期》					《後期》				
骨格系 1. 骨格系 (1)骨の形状 (2)骨の連結 (3)関節の種類 <テキスト第10章 10-I 総論,1 骨格系> 2. 脊柱1 (1)脊柱の校正 <テキスト第10章 10-II 1. 脊柱> 3. 脊柱2 (2)各部の椎骨 (3)脊柱の湾曲 <テキスト第10章 10-II 1. 脊柱> 4. まとめ1 5. 胸郭1 (1)胸骨 (2)肋骨 <テキスト第10章 10-II 2. 胸郭> 6. 胸郭2 (3)胸郭の全体像と運動 <テキスト第10章 10-II 総論,1 骨格系> 7. 上肢の骨格1 (1)上肢帯の骨 <テキスト第10章 10-II 3. 上肢の骨格> 8. 上肢の骨格2 (2)自由上肢の骨 <テキスト第10章 10-II 3. 上肢の骨格> 9. 上肢の骨格3 (3)上肢の関節 <テキスト第10章 10-II 3. 上肢の骨格> 10. 下肢の骨格1 (1)下肢帯の骨 <テキスト第10章 10-II 4. 下肢の骨格> 11. 下肢の骨格2 (2)自由下肢の骨 <テキスト第10章 10-II 4. 下肢の骨格> 12. 下肢の骨格3 (3)下肢の関節 <テキスト第10章 10-II 4. 下肢の骨格> 13. 頭蓋骨1 (1)頭蓋骨の成り立ち (2)脳頭蓋をつくる骨 <テキスト第10章 10-II 5. 頭蓋骨> 14. 頭蓋骨2 (3)顔面頭蓋をつくる骨 (4)頭部の関節・顎関節 <テキスト第10章 10-II 5. 頭蓋骨> 15. 試験問題の解説および総復習					筋系 1. 筋系 総論 <テキスト第10章 10-I 総論, 2 筋系> 2. 体幹の筋1 (1)胸筋 (2)腹筋 <テキスト第10章 10-III 1. 体幹の筋> 3. 体幹の筋2 (3)会陰筋 <テキスト第10章 10-III 1. 体幹の筋> 4. 体幹の筋3 (4)背筋 <テキスト第10章 10-III 1. 体幹の筋> 5. 上肢の筋1 (1)上肢帯の筋 <テキスト第10章 10-IV 1. 上肢の筋> 6. 上肢の筋2 (2)上腕の筋 <テキスト第10章 10-IV 1. 上肢の筋> 7. 上肢の筋3 (3)前腕の筋 <テキスト第10章 10-IV 1. 上肢の筋> 8. 上肢の筋4 (4)手の筋(手内筋) <テキスト第10章 10-IV 1. 上肢の筋 3. 上肢の局所解剖(5)(6)> 9. 下肢の筋1 (1)下肢帯の筋 <テキスト第10章 10-V 1. 下肢の筋> 10. 下肢の筋2 (2)大腿の筋 <テキスト第10章 10-V 1. 下肢の筋> 11. 下肢の筋3 (3)下腿の筋 <テキスト第10章 10-V 1. 下肢の筋> 12. 下肢の筋4 (4)足の筋 <テキスト第10章 10-V 1. 下肢の筋> 13. 頭頸部の筋1 (1)頭部の筋 <テキスト第10章 10-VI 1. 頭頸部> 14. 頭頸部の筋2 (2)頸部の筋 <テキスト第10章 10-VI 1. 頭頸部> 15. 試験問題の解説および総復習				
【テキスト】									
「解剖学」第2版 (社)東洋療法学校協会 編 河野邦雄 他著 医歯薬出版社									
【成績評価方法】									
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。									
【授業実施上の留意点】									
授業は講義形式にて行う。教科書の通読を基本とし、教科書を通読・理解するにあたり必要な医学用語・知識を解説し、各疾患を理解する為の手がかりとする授業が目標とする。基礎医学に対する知識が必要となる為、知識に乏しいものはあらかじめ予習をしておくこと。									

講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅱ(解剖学Ⅱ)		【分野】専門基礎	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】高山 智仁	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 人体の構造を頭に描くことができる。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 人体の構成、神経系、循環器系の構造を説明できる。				
【 授 業 計 画 】				
< 前 期 >		< 後 期 >		
1. 人体の構成① 細胞小器官 2. 人体の構成② 細胞分裂 3. 人体の構成③ 組織 4. 人体の構成④ 組織 5. 人体の構成⑤ 組織 器官 6. 中枢神経① 7. 中枢神経② 8. 中枢神経③ 9. 中枢神経④ 10. 中枢神経⑤ 11. 脳神経① 12. 脳神経② 13. 脳神経③ 14. 神経復習 15. 試験解説および総復習		1. 脊髄神経① 2. 脊髄神経② 3. 自律神経① 4. 自律神経② 5. 心臓 6. 体循環の主な動脈 7. 頭頸部の動脈 8. 上肢の動脈 9. 体患部の動脈 10. 下肢の動脈 11. 静脈系① 12. 静脈系②胎児循環 13. リンパ系 14. 脈管系復習 15. 試験解説および総復習		
【テキスト】 「解剖学」(医歯薬出版社)河野邦雄ほか				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書、配布資料の通読を基本とする。授業内容を理解するにあたり、知識に乏しい者はその都度該当教科の復習を要する。				

講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅴ(生理学Ⅰ)	【分野】専門基礎	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】谷 直樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60 【単位数】2
【一般目標:GIO】 人体の80年以上に及ぶ生命活動を、その恒常性維持機能と共に説明でき、かつ次世代にどのように受け継がれるか、述べる事が出来る。また、次年度以降の恒常性維持機能の破綻である疾病に対する学習を控えて認知的領域および情意的領域におけるレディネスを獲得することが目標である。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 生理学の定義を述べる事が出来る。 正常人体の恒常性に対する知識を述べる事が出来る。 人体の生命活動に対して医療倫理を踏まえた科学的な考察が出来る。 はり師・きゅう師およびあん摩マッサージ指圧師国家試験に対応した知識を述べる事が出来る。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 第1章 生理学の基礎 (生命機能の特徴・細胞の構造と機能①)	2. 第1章 生理学の基礎 (生命機能の特徴・細胞の構造と機能②)	3. 第1章 生理学の基礎 (物質代謝)	4. 第1章 生理学の基礎 (体液の組成と働き・物質移動)
5. 第2章 循環 (血液の組成と働き)	6. 第14章 生体の防御機構 (生体の防御機構)	7. 第14章 生体の防御機構 (免疫反応)	8. 第2章 循環 (止血・線維素溶解)
9. 第2章 循環 (血液型・心臓血管系)	10. 第2章 循環 (心臓の構造と働き)	11. 第2章 循環 (血液循環)	12. 第2章 循環 (循環調節)
13. 第2章 循環 (リンパ系)	14. 第2章 循環 (循環器補足)	15. 試験解説および総復習	
1. 第3章 呼吸 (呼吸器・換気とガス交換①)	2. 第3章 呼吸 (呼吸器・換気とガス交換②)	3. 第3章 呼吸 (呼吸運動とその調節)	4. 第4章 消化と吸収 (消化と吸収・消化管の運動)
5. 第4章 消化と吸収 (消化液・吸収)	6. 第4章 消化と吸収 (肝臓の働き・接触の調節)	7. 第5章 代謝 (食品と栄養素・代謝)	8. 第5章 代謝 (各種栄養素の働きと代謝)
9. 第6章 体温 (体温調節・体熱の産生と放散)	10. 第6章 体温 (発汗とその調節・体温調節の障害)	11. 第7章 排泄 (腎臓の働き・腎循環)	12. 第7章 排泄 (尿生成)
13. 第7章 排泄 (腎臓と体液の調節)	14. 第7章 排泄 (蓄尿と排尿)	15. 試験解説および総復習	
【テキストなど】 テキスト:「生理学」第3版、東洋療法学校協会監修、医歯薬出版 参考書:授業内で適宜紹介。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書を通読、理解する。板書を中心として時に補足プリントを配布する。 プリントは当日のみの配布になる。欠席者分の確保の必要があれば、クラス自治で対応する事。 復習が大切です。時間をかけて行うように。			

講義要綱

【授業科目名】保健医療福祉	【分野】専門基礎	【学年】1年	【学期】前期		
【学科】本科	【講師名】湯浅陽介	【授業コマ数】23	【授業時間数】45		
【一般目標:GIO】 医療の歴史、現代の医学、医療制度および医療従事者の倫理について学ぶ。 医療を担う一員として、幅広い視野をもって考える姿勢を学ぶ。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 西洋と東洋の医学の発展の経緯、医学の変遷を医学史的に理解できる。 西洋医学、東洋医学それぞれの現状と抱えている問題を取り上げ、医学や医療の在り方について考察できる。 現代の医療・介護・福祉制度を理解できる。 医療者としての倫理を身につける。					
【 授 業 計 画 】					
< 前 期 >					
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 施術者の法的な位置づけ 2. 施術者の要件 3. 医学史序説 ・医学史的方法 4. 西洋医学の起源 5. 古代の医学 エジプト医学 バビロニア医学 6. 古代ギリシア医学 ヒポクラテス医学 7. ルネッサンスの医学 17世紀の医学 8. 18世紀の医学 9. 19世紀以降の医学 10. 東洋の医学と医療の歴史① 11. 東洋の医学と医療の歴史② 12. 日本の医学と医療の歴史① 13. 日本の医学と医療の歴史② 14. 現代医学の課題 15. 東洋医学と西洋医学 16. 現代の医療制度 17. 国民医療費 18. 医療保険の仕組み 19. 医療統計読解 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 20. 介護保険制度 公的医療負担 21. 医療倫理① 脳死、ターミナルケア、尊厳死など 22. 医療倫理② バイオエシックス、インフォームドコンセントなど 23. 試験解説および総復習 </td> </tr> </table>				1. 施術者の法的な位置づけ 2. 施術者の要件 3. 医学史序説 ・医学史的方法 4. 西洋医学の起源 5. 古代の医学 エジプト医学 バビロニア医学 6. 古代ギリシア医学 ヒポクラテス医学 7. ルネッサンスの医学 17世紀の医学 8. 18世紀の医学 9. 19世紀以降の医学 10. 東洋の医学と医療の歴史① 11. 東洋の医学と医療の歴史② 12. 日本の医学と医療の歴史① 13. 日本の医学と医療の歴史② 14. 現代医学の課題 15. 東洋医学と西洋医学 16. 現代の医療制度 17. 国民医療費 18. 医療保険の仕組み 19. 医療統計読解	20. 介護保険制度 公的医療負担 21. 医療倫理① 脳死、ターミナルケア、尊厳死など 22. 医療倫理② バイオエシックス、インフォームドコンセントなど 23. 試験解説および総復習
1. 施術者の法的な位置づけ 2. 施術者の要件 3. 医学史序説 ・医学史的方法 4. 西洋医学の起源 5. 古代の医学 エジプト医学 バビロニア医学 6. 古代ギリシア医学 ヒポクラテス医学 7. ルネッサンスの医学 17世紀の医学 8. 18世紀の医学 9. 19世紀以降の医学 10. 東洋の医学と医療の歴史① 11. 東洋の医学と医療の歴史② 12. 日本の医学と医療の歴史① 13. 日本の医学と医療の歴史② 14. 現代医学の課題 15. 東洋医学と西洋医学 16. 現代の医療制度 17. 国民医療費 18. 医療保険の仕組み 19. 医療統計読解	20. 介護保険制度 公的医療負担 21. 医療倫理① 脳死、ターミナルケア、尊厳死など 22. 医療倫理② バイオエシックス、インフォームドコンセントなど 23. 試験解説および総復習				
【テキスト】 テキスト:「医療概論」 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) その他:適時、必要に応じてプリントを配布する。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書およびプリントの通読を基本とする。 基礎医学に対する知識が必要となる為、知識に乏しいものはあらかじめ予習をしておくこと。					

講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅰ(東洋医学概論)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】仙田 昌子	【授業コマ数】45	【授業時間数】90
【一般目標:GIO】 鍼灸、按摩マッサージ指圧に必要な東洋医学の知識を修得する。			
【行動目標・到達目標:SBO】 東洋医学的観点から人体について説明することができる。 東洋医学の基礎理論(陰陽五行論)を理解し、診断法、治療法に活かすことができる。			
【 授 業 計 画 】			
<前 期>		<後 期>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論(陰陽、五行、生理事物質、臓腑) 2. 陰陽論(陰陽の生理と病理) 3. 五行説(相生相克) 4. 五行説(色体表) 5. まとめ 6. 五臓の生理① 7. 五臓の生理② 8. 五臓の生理③ 9. 五臓の生理④ 10. 五臓の生理⑤ 11. 五臓の相互関係 12. 六腑の生理 13. 生理事物質と臓腑 14. 三焦 15. まとめ・小テスト 16. 気の生理・気機 17. 気の病理 18. 血、津液、精の病理 19. 生理事物質の病理伝変 20. 病因(外感病)① 21. 病因(外感病)② 22. 病因(内傷病) 23. 病因(内生五邪) 24. 五臓の病理① 25. 五臓の病理② 26. 五臓の病理③ 27. 五臓の病理④ 28. 五臓の病理⑤ 29. まとめ 30. 期末試験総評 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 五臓六腑の病理① 2. 五臓六腑の病理② 3. 五臓六腑の生理と病理(復習) 4. 五臓の病理相互関係 5. 伝変波及① 6. 伝変波及② 7. まとめ 8. 陰陽五行論 9. 色体表① 10. 色体表② 11. 経絡の生理 12. 経絡病症① 13. 経絡病症② 14. 経絡病症③ 15. 期末試験総評 	
【テキスト】 図書名:(社)東洋療法学校協会「新版 東洋医学概論」 執筆者:教科書執筆小委員会 出版社:医道の日本社			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。 前期においては15回目にそれまでの内容について小テストを行い、前期末の評価に加味する。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式、教科書と配布プリントを中心に行う。			

講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅱ(経絡経穴概論)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】上杉健二	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【一般目標:GIO】 臨床において用いられる経絡・経穴をWHOの基準に基づいて理解し、施術者間で意思疎通ができる。 経絡・経穴の部位と意義を理解することにより、臨床において適格な選穴と取穴ができる。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 経絡の流注とその名称およびその意義を述べることができる。 経穴の部位と、取穴の際に用いられる解剖学的知識を述べることができる。 各経穴の古典的・現代的な穴性を述べることができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1 ガイダンス・経絡経穴の基礎	1 手の太陽小腸経	2 手の太陽小腸経/足の太陽膀胱経	
2 経絡経穴の基礎①	2 足の太陽膀胱経①		
3 経絡経穴の基礎②	3 足の太陽膀胱経②		
4 督脈経	4 足の太陽膀胱経/足の少陰腎経		
5 督脈経/任脈経	5 足の少陰腎経		
6 任脈経	6 手の厥陰心包経		
7 手の太陰肺経	7 手の少陽三焦経		
8 手の陽明大腸経	8 手の少陽三焦経/足の少陽胆経		
9 手の陽明大腸経/足の陽明胃経	9 足の少陽胆経①		
10 足の陽明胃経①	10 足の少陽胆経②		
11 足の陽明胃経②	11 足の少陽胆経/足の厥陰肝経		
12 足の太陰脾経①	12 足の厥陰肝経・奇経八脈		
13 足の太陰脾経②	13 奇穴・その他		
14 手の少陰心経	14 試験問題解説および総復習		
15 試験問題解説および総復習			
【テキスト】 テキスト:「経絡経穴概論 第2版」東洋療法学校協会編(医道の日本社) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 小テストを実施することも多く、欠かさず授業に参加する姿勢が必要となる。 暗記を多く求められる為、日ごろより復習を欠かさず行う姿勢が必要となる。			

講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅲ(あん摩マッサージ指圧理論)		【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】吉田和大	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 あん摩マッサージ指圧の施術の意義、作用機序および治効理論などについて習得する。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 あん摩マッサージ指圧の施術の意義、作用機序および治効理論などを理解し適切な施術が出来る。				
【 授 業 計 画 】				
< 前 期 >		< 後 期 >		
1. 手技療法、手技三法 2. 変調効果、自然治癒力、恒常性維持機能 3. あん摩の意義と沿革 4. あん摩の基本手技とその作用 5. 指圧の意義と沿革 6. 指圧の基本手技とその作用 7. マッサージの意義と沿革 8. マッサージの基本手技とその作用 9. あ・マ・指の相違点 10. アメリカの整体術 11. あ・マ・指の各組織・器官におよぼす作用 12. 運動法・運動療法 13. あ・マ・指の治療効果 14. 総復習 15. 試験解説		1. あ・マ・指と東洋医学 2. 古法あん摩 3. あ・マ・指の応用分野 4. リンパドレナージ、関節モビリゼーション、足反射療法 5. 物理療法 6. 電気療法 7. 光線療法 8. 温熱療法 9. 水治療法 10. 温泉療法 11. 適応と禁忌 12. 施術上の注意 13. 物理療法の実習 14. 総復習 15. 試験解説		
【テキスト】 (社)東洋療法学校協会「あん摩マッサージ指圧理論」(医道の日本社)				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 教科書を中心に進め、補助プリントを講義ごとに配布する。 本科目は手技療法の概念や基礎理論を身につける科目である。 積極的に授業に参加し、能動的に学ぶ姿勢が望ましい。单元ごとに小テストを行う予定。				

講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅰ（臨床基礎理論Ⅰ）	【分野】専門	【学年】1年	【学期】後期
【学科】本科	【講師名】松村 天裕	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 鍼灸臨床で遭遇しやすい症候・疾患について、適切な鑑別、評価、治療を行うための基礎を身に付ける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 ・医療面接、バイタルサインについて学び、異常所見および意義を理解し、判断することができる。 ・鍼灸臨床における一連の流れを実践し、患者に対する適切な態度を示すことができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. カルテの記載事項について① 3. 医療面接・コミュニケーション 4. 医療面接の流れ 5. 医療面接(問診)の項目① 6. 医療面接(問診)の項目② 7. 医療面接演習① 8. 医療面接演習② 9. 診察について 10. バイタルサイン① 11. バイタルサイン② 12. バイタルサイン③ 13. 医療面接・診察演習① 14. 医療面接・診察演習② 15. 試験解説 	
【テキスト】 テキスト:「鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック」、「臨床医学総論」 その他:必要に応じて資料を配布する。			
【成績評価方法】 授業内の課題、所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験を実施し評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義と演習形式にて行う。 教科書の通読を基本とし、必要な医学用語・知識を解説する。 演習時は患者を想定し適切な態度で行うこと。			

講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅱ(解剖経穴学)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】後期
【学科】本科	【講師名】上杉健二	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 解剖と経穴の関係を理解し、臨床で遭遇する諸種の疾患に対して治療穴を的確に選択、取穴できるようになることを目標とする。 国家試験中の解剖経穴学的見地から作成された問題に対して適切な解答を導き出すために、問題の出題意義を分析し理解できるようになることを目標とする。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 ・骨・筋の体表解剖、神経・血管の走行を把握し、経穴との関係を理解する。 ・解剖学的な知識を応用した国家試験レベルの問題に正確に解答することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
		1. 筋肉と経穴① <体幹部の筋肉> 2. 筋肉と経穴② <体幹部の筋肉> 3. 上肢陰経の経穴 <肺経> 4. 上肢陰経の筋肉と経穴 <心包経、心経> 5. 上肢陽経の筋肉と経穴 <小腸経、三焦経> 6. 上肢陽経の筋肉と経穴 <大腸経> 7. 上肢の神経と経穴 <上肢の神経> 8. 下腿陰経の筋肉と経穴 <肝経、脾経、腎経> 9. 下腿陽経の筋肉と経穴 <胃経、胆経、膀胱経> 10. 大腿の筋肉と経穴 11. 下肢の神経と経穴 12. 下肢の血管と経穴 13. 動脈拍動部と経穴 <動脈拍動部、特殊な部位> 14. 顔面の経穴 <顔面の筋肉、三叉神経領域の経穴> 15. 試験問題の解説及び総復習	
【テキスト】 配布プリント 「新版 経絡経穴概論 第2版」東洋療法学校協会編			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 パソコン、プロジェクターを使用するので準備すること。 各自色鉛筆、はさみ、のりを持参すること。			

講義要綱

【授業科目名】実習Ⅰ(はり実技〔基礎〕)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】谷 直樹	【授業コマ数】53	【授業時間数】105
【一般目標:GIO】 銀鍼を用い刺鍼の技術と知識を習得し、施術を安全・確実に行える能力と態度を学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 人体の各部位に銀鍼を安全に刺入できる技術を身につける。各部位の刺鍼時の注意事項を知る。刺鍼における有害事象の予防、対処を実践できるようになる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 鍼の基礎知識 2. 片手挿管、練習器刺入練習 3. 刺鍼手順 4. 片手挿管練習① 5. 片手挿管練習② 6. 刺鍼練習器刺入練習・小テスト① 7. 刺鍼練習器刺入練習・小テスト② 8. 現行十七手技(単刺術、雀啄術、間歇術、屋漏術) 9. 振せん術、置鍼術、旋撚術、回旋術、乱鍼術、 10. 副刺激術、示指打法、随鍼術、内調術、細指術 11. 管散術、鍼尖転移法、刺鍼転向法) 12. 片手挿管小テスト 13. 足三里刺鍼(自分の脚)① 14. 足三里刺鍼(自分の脚)② 15. 【足】三里斜刺練習 16. 水平刺(横刺)練習 17. 足三里(ペア)弾入、切皮練習 18. 足三里(ペア)刺鍼練習 19. 実技試験手順に基づく足三里刺鍼練習 20. 足三里および腰部刺鍼練習 21. 実技試験予行演習 22. 実技試験① 23. 実技試験② 24. 実技試験③ 25. 実技試験総評 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 膝部解説および刺鍼練習 2. 足関節、足趾部解説および刺鍼練習 3. 下腿前外後側解説および刺鍼練習 4. 下腿内側解説および刺鍼練習 5. 肘関節解説および刺鍼練習 6. 手関節、前腕内外側解説および刺鍼練習 7. 前腕前後面解説および刺鍼練習 8. 手指部解説および刺鍼練習 9. 肩部解説および刺鍼練習① 10. 肩部解説および刺鍼練習② 11. 頸部解説および刺鍼練習 12. 上中背部解説および刺鍼練習 13. 腰部解説および刺鍼練習 14. 殿部仙骨部解説および刺鍼練習 15. 前胸部解説および刺鍼練習 16. 上腹部解説および刺鍼練習 17. 中下腹部解説および刺鍼練習 18. 頭部解説および刺鍼練習 19. 顔面部解説および刺鍼練習 20. 実技試験手順案内 21. 実技試験練習① 22. 実技試験練習② 23. 実技試験練習③ 24. 総復習 25. 実技試験① 26. 実技試験② 27. 実技試験③ 28. 実技試験総評 	
【テキスト】 「はりきゅう実技<基礎編>」(教科書執筆小委員会編 医道の日本社)			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 人体への刺鍼は感染、組織の損傷などの危険を伴うものなので消毒手順、刺入角度、刺入深度に関して授業冒頭の注意事項は必ず聞き、遵守すること。各自道具は自己管理し、毎時欠かさず持参すること。道具の貸借は厳禁とする。実技室での実習は白衣着用のこと。			

講義要綱

【授業科目名】	実習Ⅱ(鍼灸実技【経絡治療Ⅰ】)	【分野】	専門	【学年】	1年	【学期】	後期
【学科】	本科	【講師名】	橋本 巖	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
【一般目標:GIO】	切診技術の習得と、要穴に適切な刺鍼が行えることを基準に、脈診や切経による主証決定を行い、虚実補瀉に必要な要穴を選穴して刺鍼ができることで、被験者の体質に合わせた経絡治療が実施できることを目標と						
【行動目標・到達目標:SBO】	刺鍼の前提として、脈診・切経に必須な触擦能力を修得する。刺鍼は①姿勢、②押手・刺手の基本的技術を基礎とし、要穴の正確な取穴および背部を刺鍼練習の場として、片手挿管によるスムーズな刺鍼が行えることを目標とする。各回の冒頭にデモンストレーションを行い、残りを実技実習とする。授業で行った切診情報および刺鍼部位をカルテに記入し次回の授業までに提出する。						
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
				1: ガイダンス、診察法概論(切診)、刺鍼の基礎(姿勢) 2: 脈診・切経(肺経)、刺鍼の基礎(押手) 要穴と背部刺鍼 3: 脈診・切経(脾経)、刺鍼の基礎(刺手) 要穴と背部刺鍼 4: 脈診・切経(心経)、刺鍼の基礎(弾入) 要穴と背部刺鍼 5: 脈診・切経(腎経) 要穴と背部刺鍼 6: 脈診・切経(心包経) 要穴と背部刺鍼 7: 脈診・切経(肝経) 要穴と背部刺鍼 8: 主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼① 9: 主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼② 10: 主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼③ 11: 主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼④ 12: 体質別治療① 13: 体質別治療② 14: 実技試験 15: 実技試験総評			
【テキスト】 『日本鍼灸医学』(経絡治療・基礎編)経絡治療学会編纂、『経絡経穴概論』等の経穴書							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たし、各回の評価を得た者に対し、学期末の実技試験によって評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 二人一組で、被験者役と施術者役になって練習。順次、役割を交代する。							

講義要綱

【授業科目名】実習Ⅲ(きゅう実技)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】手島 梢	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 灸施術に関する知識と基礎技術を習得し、臨床応用力を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 灸施術に関する知識を学習する。 灸施術に関する基本的技術を身に付け、安全かつ確実にこなせる。 深谷灸について学習し、臨床に応用できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. お灸の基礎知識		1. 深谷灸法の考え方、基礎手技	
2. 施灸練習①		2. 消化器疾患①	
3. 施灸練習② <点火、消火>		3. 消化器疾患②	
4. 施灸練習③ <透熱灸>		4. 呼吸器疾患①	
5. 施灸練習④ <透熱灸>		5. 呼吸器疾患②	
6. 施灸練習⑤ <八分灸>		6. 循環器疾患①	
7. 施灸練習⑥ <八分灸>		7. 循環器疾患②	
8. 施灸練習⑦ <自己施灸・八分灸、透熱灸>		8. 運動器疾患①	
9. 施灸練習⑧ <自己施灸・八分灸、透熱灸>		9. 運動器疾患②	
10. 施灸練習⑨ <他者施灸・八分灸>		10. 運動器疾患③	
11. 施灸練習⑩ <他者施灸・八分灸>		11. 総復習①	
12. 施灸練習⑪ <施灸動作の全体確認、総合演習>		12. 実技試験①	
13. 実技試験①		13. 実技試験②	
14. 実技試験②		14. 試験総評	
15. 実技試験の総評		15. 隔物灸	
【テキスト】 前期:「はりきゅう実技<基礎編>」東洋療法学校協会編、教科書執筆小委員会著(医道の日本社) 後期:「図説 深谷灸法」入江靖二編著(緑書房)			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 ・授業は原則として実技室を使用し、白衣を着用すること。 ・火気を扱うため、安全には十分に配慮すること。 ・原則として、施灸練習台、艾、ライター、タオルを各自持参すること。			

講義要綱

【授業科目名】実習Ⅳ(あん摩実技Ⅰ)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】殿村康一	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【一般目標:GIO】 あん摩(吉田流あん摩術)に関する技術と知識を修得し、施術を安全確実にこなせる能力と態度を学習する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 吉田流あん摩術の基本手技を理解しまたこれを用いて、全身の施術を1時間で行うことができる。			
【 授 業 計 画 】			
＜ 前 期 ＞		＜ 後 期 ＞	
1. 授業ガイダンス	1. 1時間施術の説明	2. 横臥位(肩背部)の施術の説明と練習	2. 横臥位(肩背部)の練習
2. あん摩の基本手技と吉田流あん摩術の特徴について説明	3. 横臥位(肩背部)の練習	4. 横臥位(上肢部)の施術の説明と練習	4. 横臥位(上肢部)の練習
3. 母指揉捏法の説明と練習	4. 横臥位(上肢部)の施術の説明と練習	5. 横臥位(頸部から腰部)の施術の説明と練習	5. 横臥位(頸部から腰部)の練習
4. 母指揉捏法の練習と自己練習の方法を説明	5. 横臥位(頸部から腰部)の練習	6. 横臥位(臀部から下腿部)の施術の説明と練習	6. 横臥位(臀部から下腿部)の練習
5. 座位(肩背部)の施術の説明と練習	6. 横臥位(臀部から下腿部)の練習	7. 総復習および試験練習①	7. 総復習および試験練習②
6. 座位(肩背部)の練習	7. 横臥位(頸部から腰部)の練習	8. 実技試験①と練習	8. 実技試験①と練習
7. 個人別母指揉捏法のチェックと練習①	8. 横臥位(臀部から下腿部)の施術の説明と練習	9. 実技試験②と練習	9. 実技試験②と練習
8. 個人別母指揉捏法のチェックと練習②	9. 横臥位(臀部から下腿部)の練習	10. 実技試験③と練習	10. 実技試験③と練習
9. 座位(肩背部)の施術練習①	10. 総復習および試験練習①	11. 実技試験総評<全体・個別>と復習	11. 実技試験総評<全体・個別>と復習
10. 座位(肩背部)の施術練習②	11. 総復習および試験練習②		
11. 座位(肩背部)の施術練習③	12. 実技試験①と練習		
12. 実技試験①と練習	13. 実技試験②と練習		
13. 実技試験②と練習	14. 実技試験③と練習		
14. 実技試験③と練習	15. 実技試験総評<全体・個別>と復習		
15. 実技試験総評<全体・個別>と復習			
【テキスト】 ・「吉田流あん摩術」医道の日本社 ・プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間数を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は白衣を着用し手ぬぐいを使用する。 実技の説明時には必ずメモをとり、復習する時に間違えないように正確で見やすいものにする。 毎日必ず1時間は練習を心がけ手技の修得に努める。			

講義要綱

【授業科目名】実習Ⅴ(マッサージ実技)		【分野】専門		【学年】1年	
【学科】本科		【講師名】上杉健二		【授業コマ数】30	
【一般目標:GIO】		マッサージに関する正しい技術と知識を習得し、臨床において患者に対し安全かつ確実に施術できる能力を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBO】		基本手技の基礎的理解と体得を全身各部位に対して、安全かつ正しく行うことが出来る。 施術部位に関する基本的な解剖学的特徴を理解する。 施術者として好ましい身だしなみ、言葉遣い、生活態度を養う。			
【 授 業 計 画 】					
< 前 期 >			< 後 期 >		
1 マッサージの歴史、基礎知識、基本手技の確認、姿勢			1 手部の解剖学、基本的なマッサージ		
2 前腕部の解剖学、基本的なマッサージ①			2 足部の解剖学、基本的なマッサージ		
3 前腕部の解剖学、基本的なマッサージ②			3 腰部の解剖学、基本的なマッサージ①		
4 上腕部の解剖学、基本的なマッサージ①			4 腰部の解剖学、基本的なマッサージ②		
5 上腕部の解剖学、基本的なマッサージ②			5 腹部に対する基本的なマッサージ		
6 上肢全体の総復習			6 頸部、頭部に対する基本的なマッサージ		
7 下腿部の解剖学、基本的なマッサージ①			7 肩こりに対するマッサージ		
8 下腿部の解剖学、基本的なマッサージ②			8 腰痛に対するマッサージ		
9 大腿部の解剖学、基本的なマッサージ①			9 膝痛に対するマッサージ		
10 大腿部の解剖学、基本的なマッサージ②			10 手足の関節痛に対するマッサージ		
11 下肢全体の総復習			11 総合演習		
12 実技試験の説明および試験練習			12 実技試験①		
13 実技試験①			13 実技試験②		
14 実技試験②			14 実技試験③		
15 実技試験の総評			15 実技試験の総評		
【テキスト】					
(社)東洋療法学校協会「あんまマッサージ指圧実技」(医道の日本)教科書執筆小委員会 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。					
【成績評価方法】					
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】					
教科書を中心に進め、補助プリントを講義ごとに配布する。 技術向上、体得には練習が必要であることを説明する。患者役(相手)を思いやる態度で接する。 実習は白衣着用とし、髪型、爪など施術者としての品位を保つ様心掛ける。					

講義要綱

【授業科目名】実習Ⅵ(指圧実技)	【分野】専門	【学年】14【学期】前期
【学科】本科	【講師名】上杉健二	【授業コマ数】15【授業時間数】3【単位数】1
【一般目標:GIO】 指圧に関する正しい技術と知識を習得し、臨床において患者に対し安全かつ確実に施術できる能力を身につける。		
【行動目標・到達目標:SBO】 基本手技の基礎的理解と体得を全身各部位に対して、安全かつ正しく行うことが出来る。 施術部位に関する基本的な解剖学的特徴を理解する。 施術者として好ましい身だしなみ、言葉遣い、生活態度を養う。		
【 授 業 計 画 】		
< 前 期 >		
<ol style="list-style-type: none"> 1 指圧の意義、基本姿勢、自己指圧 2 背腰部の解剖学、基本的な指圧① 3 背腰部の解剖学、基本的な指圧② 4 下肢の解剖学、基本的な指圧① 5 下肢の解剖学、基本的な指圧② 6 側臥位での基本的な指圧 7 側臥位/仰臥位での基本的な指圧 8 仰臥位での基本的な指圧 9 胸腹部の解剖学、基本的な指圧 10 頭部・顔面部の解剖学、基本的な指圧 11 実技試験の説明および試験練習 12 実技試験① 13 実技試験② 14 実技試験③ 15 実技試験の総評 		
【テキスト】 (社)東洋療法学校協会「あんまマッサージ指圧実技」(医道の日本)教科書執筆小委員会 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。		
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。		
【授業実施上の留意点】 教科書を中心に進め、補助プリントを講義ごとに配布する。 技術向上、体得には練習が必要であることを説明する。患者役(相手)を思いやる態度で接する。 実習は白衣着用とし、髪型、爪など施術者としての品位を保つ様心掛ける。		